

学術情報流通とIR

研究者とIR

武田 英明
国立情報学研究所
takeda@nii.ac.jp

私の立場

- 国立情報学研究所 学術コンテンツサービス
研究開発センター長
 - 学術情報流通の一環として、機関リポジトリを推進する立場
- 国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系 教授
 - 人工知能、Web情報学の研究者

私の立場

- 国立情報学研究所 学術コンテンツサービス
研究開発センター長
 - 学術情報流通の一環として、機関リポジトリを推進する立場
- 国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系 教授
 - 人工知能、Web情報学の研究者

大競争時代

学術コンテンツサービスの今

e-science

著者同定

分析サービス

論文検索

電子
ジャーナル

電子出版

オープンアクセス



THOMSON REUTERS

SCOPUS

Google
Book Search BETA

BRITISH LIBRARY

Google
scholar beta

Microsoft
Academic Search Beta
Microsoft



ELSEVIER

amazon.com

COAR
Confederation of Open Access Repositories

Springer

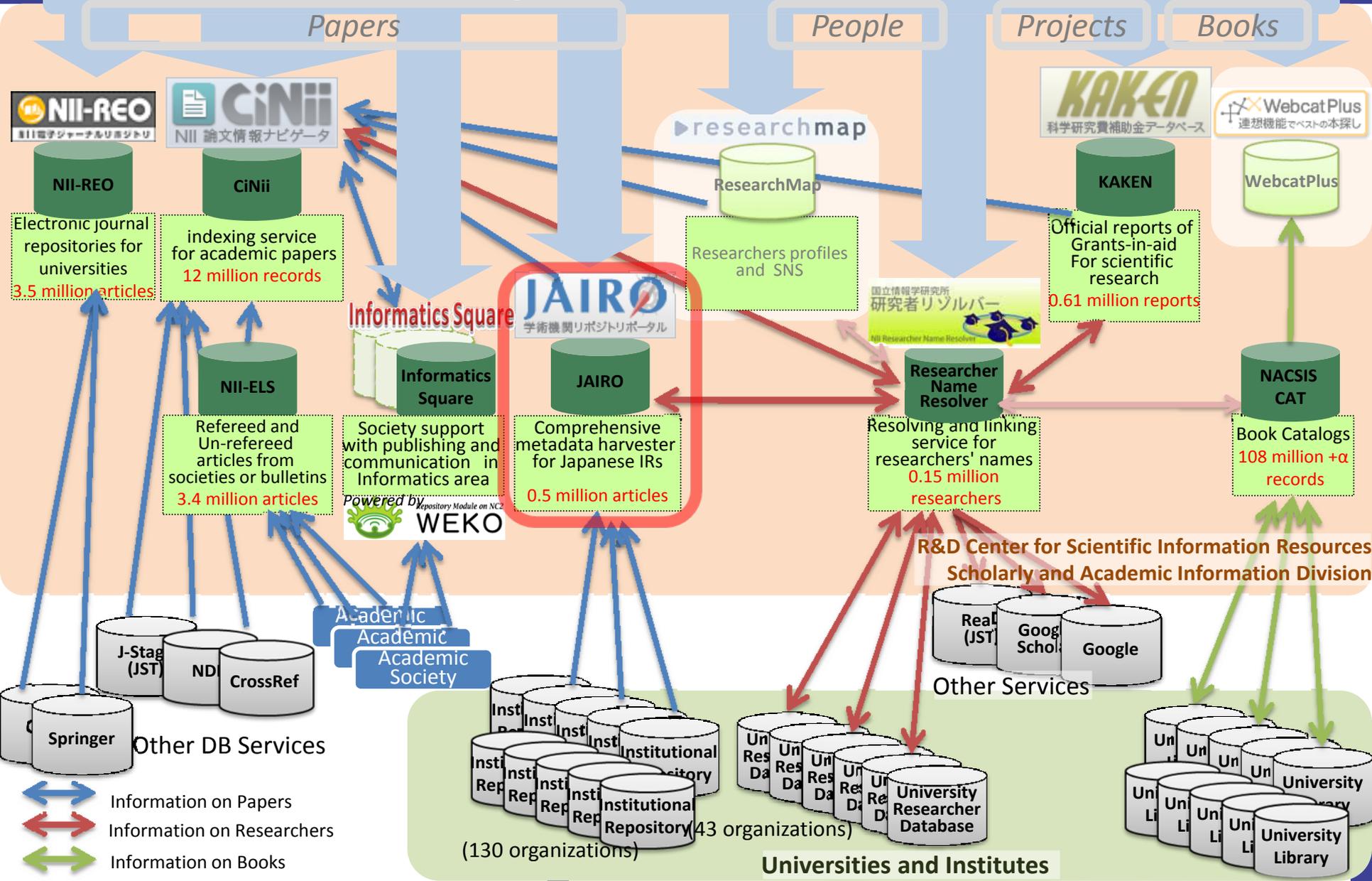
国立国会図書館
National Diet Library

citeulike

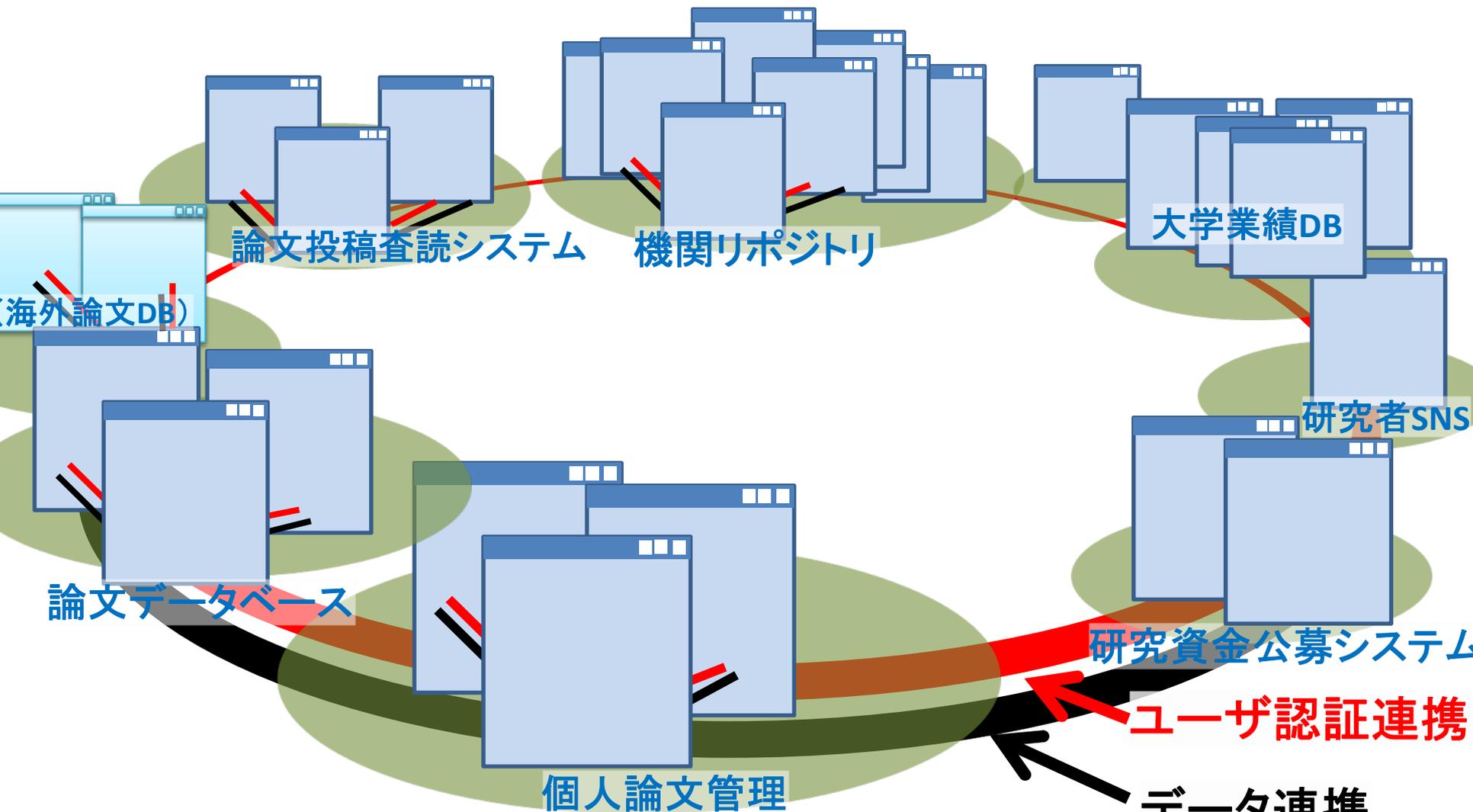
OCLC
J-STAGE

国立情報学研究所(NII)の学術情報サービスの概要

Scholarly information services in NII



分散、多様、オープンなサービスの連携としての研究情報の流通



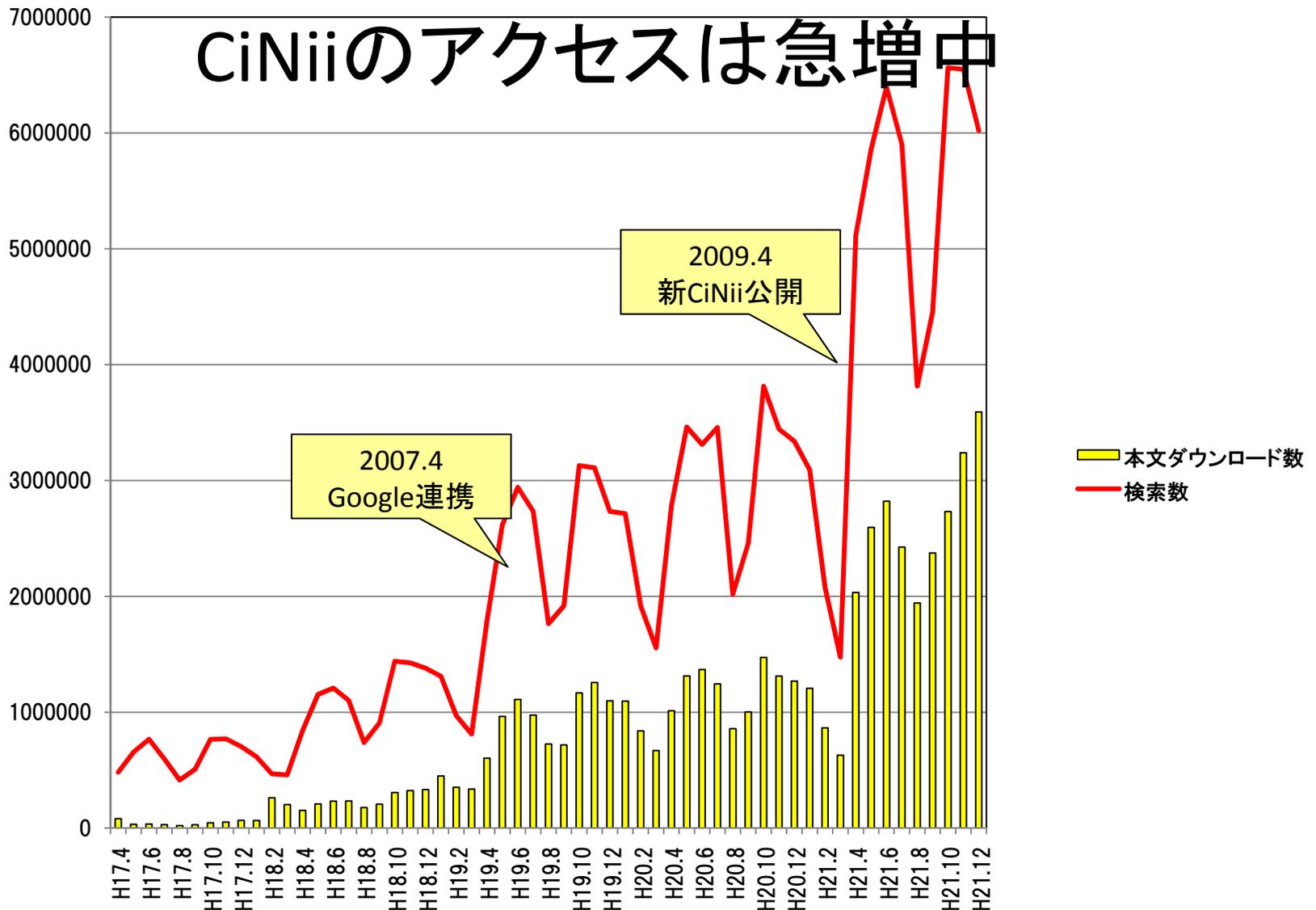
学術情報流通の円環の要素としてIRの期待

- メタデータのハーベスティング、API◎
- 大学業績DBなど大学内システムとの連携△
- 大学外のシステムとの連携
 - 研究者同定と研究者ID連携△

私の立場

- 国立情報学研究所 学術コンテンツサービス
研究開発センター長
 - 学術情報流通の一環として、機関リポジトリを推進する立場
- 国立情報学研究所 情報学プリンシプル研究系 教授
 - 人工知能、Web情報学の研究者

利用側：アクセスは問題ない



研究者の立場で

- 研究者にとってIRは新しい公開ルート
 - たぶん、多くの研究者はその意味は理解できていない。
 - 学術雑誌論文、国際会議論文
 - 商業誌記事、著書
 - 紀要、テクニカルレポート
 - Web
 - 機関リポジトリ???

情報提供側：研究者にとってIR

既存の公開方法

- 学術雑誌論文
- 国際会議論文
- 商業誌記事、著書
- 紀要
- テクニカルレポート
- Web

機関リポジトリ

- 一次資料
 - 紀要
 - テクニカルレポート
- 未発表論文
- データ
- 二次資料
 - 既発表論文
 - セルフアーカイブ
 - オープンアクセス

自由に
今すぐ公開
(研究活動の一環)

アーカイブ
(研究者に
とって雑務)

研究者が(Webじゃなくて) IRを使う理由

- 一次資料(データ)

- 研究者の直接のニーズ: 自由に / 早く
- 研究者の背後のニーズ: 安定運用 / 長期保存

e-Scienceのツールとしての役割

クラウド化

- 一次資料(論文、著書)

- 研究者の直接のニーズ: カタログ登録
- 研究者の背後のニーズ: 安定運用 / 長期保存

“電子出版社”としての役割

研究の
インフラ

書籍の
電子化
の流れ

- 二次資料

- 研究者の直接のニーズ: 安定運用 / 長期保存
- 研究者の背後のニーズ:

“アーカイブ”としての役割

IRの光↑と影↓

これはわ
かりづらい

まとめ

- 情報流通の円環の要素としてのIRの機能強化
- IRの役割に応じた機能強化とPR